

## 耶馬溪町金吉地区 山地崩壊災害から1年を迎えて

昨年4月11日未明に発生いたしました、中津市耶馬溪町金吉地区山地崩壊災害から1年を迎えました。

犠牲となられました方々には、心よりお悔やみ申し上げますとともに、現在も避難生活をされております皆様にお見舞い申し上げます。

改めて振り返りますと、この災害は、降雨や地震等が起因とならない、全国でも前例のないような非常に稀有な災害でありました。

いつ二次災害が起きてもおかしくないような危険な状況の中、24時間体制で12日間にわたって、自衛隊をはじめ警察、消防、地元建設業協会、国土交通省、農林水産省、大分県、大分大学など多くの機関、団体の方々に、人命第一で救出活動や被災者支援にあたっていただきましたことに心より感謝申し上げます。

また、義援金、寄付金など全国の多くの皆様から心温まるご支援を頂きましたことにつきましても、重ねて感謝を申し上げます。

現在、被災地では、国及び県により、原因究明そして本格的な復旧工事に取り組んでいただいております。復興に向けて着実に歩みを進めています。

中津市も、防災、減災対策のさらなる強化に向けて、防災カメラの設置などをはじめとしたハード対策、そしてソフト対策としては、災害発生直後からに既に調査済みであった土砂災害警戒区域1012箇所の新しい土砂災害ハザードマップ作成に着手し、地域住民と一緒に話し合いながら平成30年度末までに、対象地域への配布を完了し、周知を図りました。

今後も大分県による土砂災害警戒区域の指定に合わせて、新しいハザードマップの作成に取り組んでまいります。

近年、災害はいつ、どこで起こってもおかしくない状況にあります。

1年前の辛い経験を教訓とし、その備えとして、自助・共助・公助の連携を強め、災害に強い、市民が安全・安心に暮らせるまちづくりに取り組んでまいります。

平成31年4月11日

大分県中津市長 奥 塚 正 典